

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 168 2019. 2. 8

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX:050-3488-5061
E-mail: jsei@ahiya-u.ac.jp <http://jsei.jp/home/>

＝ 日本教育情報学会 第 35 回年会 ＝

開催日：8月24日（土）・25日（日）
会場：岡山理科大学 岡山キャンパス
テーマ：超スマート社会に向けた学びの変革

第35回年会の会場は、岡山理科大学の岡山キャンパスで開催されます。2018年、獣医学部が愛媛県今治キャンパスに設置され、2つのキャンパスとなりました。岡山キャンパスは、岡山駅から北に向かって望むことができる半田山に位置しています。キャンパスからは岡山の市内をきれいに望むことができます。岡山には1700年代から続く江戸時代の日本庭園の岡山後楽園、外観が黒いことで「烏城（うじょう）」とも呼ばれる岡山城があります。また、教育関係としては、1670年岡山藩直営の庶民教育のために開校された旧閑谷学校の史跡があります。世界で最古の庶民のための公立学校として、2015年に日本遺産「近世日本の教育遺産群—学ぶ心・礼節の本源—」として選ばれました。現在は、岡山県青少年教育センターとして、さまざまなイベントが開催されています。ぜひとも、この機会に訪れてはいかがでしょうか。

第35回年会のテーマは、「超スマート社会に向けた学びの変革」となりました。現在岡山理科大学では、教育改革の真ただ中で、その中で、副学長という立場で、活躍されている秦敬治先生による記念講演を予定しております。シンポジウムでは、地元岡山から教育関係を中心に担当されている方に、参加いただく予定です。今回の年会もICTをはじめ教育関連企業と連携して、展示や体験スペースの設置を予定しております。研究発表では、一般研究と課題研究に分かれ、2日間を横断的な構成で発表を予定しています。多くの発表をお待ちしております。

「Society5.0」そして「学校 Ver. 3.0」をはじめ、教育改革のキーワードが目白押し、2020年に向けて、超スマート社会に向けて何が必要なのか、参加される皆さんと、意見交換をしたいと思えます。

第35回年会実行委員長 河野 敏行

開催日：2019年8月24日（土）・25日（日）

会 場：岡山理科大学 岡山キャンパス

<所在地> 〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

<大学HP> <http://www.ous.ac.jp/>

事務局：日本教育情報学会 第35回年会実行委員会

<所在地> 〒700-0005 岡山市北区理大町1-1

岡山理科大学 河野研究室

<E-mail> kohno@mis.ous.ac.jp

年会HP：<http://ous.blue/jsei2019/>

後 援：岡山県教育委員会（予定），岡山市教育委員会（予定）

日程（予定）

<1日目> 8月24日（土）		<2日目> 8月25日（日）	
9:00～	受付	9:00～	受付
10:00～12:00	課題研究発表	10:00～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食
13:15～14:00	総会・学会賞表彰式	13:00～14:00	特別セミナー
14:10～14:50	研究会活動報告	14:00～14:15	休憩
15:00～16:00	記念講演	14:15～16:15	一般研究発表
16:15～17:45	シンポジウム		
18:00～19:30	懇親会		

※変更が生じる場合がありますので、最終版のプログラムにてご確認ください。

【1】 記念講演

超スマート社会に向けた学びの変革 — 教育改革の取り組み —

講演者：秦 敬治（岡山理科大学副学長）

【概要】

教育の質保証や社会人基礎力の担保に向けて、アクティブ・ラーニングやラーニング・コモンズなど様々な教育や教育環境改革を各大学が担わなければならない時代となっています。それとともに、大学入学者は多様化し、より学生個人に合わせた教育も求められています。そのような中で今回は、これからの「超スマート社会に向けた学びの改革」について、愛媛大学、追手門学院大学、岡山理科大学などで教育改革を進めてきた事例や手法を基に、参加者と一緒に考えるための話題提供を行います。

特に、学生の成長のために大学や教職員がどのような目的・目標・教育手法・コンテンツ・評価法・フィードバック法を検討・構築・実践し、効果的に機能させていくためのリーダーシップやマネジメントスタイルを展開しているのかについて複数の大学の事例を提供させていただきます。

【2】 シンポジウム

テーマ：超スマート社会に向けた学びの変革

コーディネータ：安達一寿 教授（十文字学園女子大学）
登壇者： 山下泰生 教授（関西国際大学基盤教育機構）
鍋谷正尉 教諭（大田区立東調布第一小学校）
齋藤陽子 准教授（岐阜女子大学）
未定（ベネッセ教育総合研究所）

Society5.0 は狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続いて、超スマート社会という人類史上 5 番目の新しい社会の構想が国の政策として打ち出されました。このような社会に必要な力として、文章や情報を正確に読み解き対話し書く力、科学的に思考・吟味する力、価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心、探求力が求められています。また、このような新しい社会に変革する人材として、技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材、技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを想像する人材、様々な分野において AI やデータの力を最大限活用し展開できる人材が必要となっています。そして、現在このような人材を育成するための新たな「学び」の時代の実現のための 3 つの課題として、

- (1) 個別最適化された学びを如何に公正に提供するか
- (2) 読解力などの基礎的な力を確実に習得させる仕組みをどう構築するか
- (3) 高校から大学にかけての文理分断の学びをどう脱却するか

についての議論がなされています。

このような背景のもと、教育支援企業という視点、様々な取り組みをされている事例紹介、グローバルな観点、2020年にプログラミング教育がスタートする小学校の教育現場からの意見を伺い、さらに、当学会からどのような取り組みが可能なのかということなどの議論を進めていただきたいと思います。

【3】 特別セミナー

テーマ「超スマート社会に向けた学校教育の課題と 日本教育情報学会への期待」

登壇者： 堀田龍也 教授（東北大学大学院）

我が国の政府は Society5.0（超スマート社会の実現）を目指し、少子高齢化を始めとする諸課題の解決に IoT や AI などのテクノロジーの積極的な活用を位置づけています。このような社会に対応できる人材の育成が現在の学校教育に期待されているところであるが、学校現場における情報化は十分に進んでおらず、さまざまな課題が山積しています。本セミナーでは、これらの課題を共有し、実践的な解決に向かうための教育情報研究について、本学会への期待を含めて議論します。

【4】 課題研究

① 各研究会による課題研究のテーマ

テーマ： 新たな学びと教育実践（教育資料研究会）

【コーディネータ】加藤 直樹（岐阜大学）、齋藤 陽子（岐阜女子大学）

【要旨】

本年会での「新たな学びの創造」に迫るべく、「学び」の時代が到来した現代社会において、個別最適化された学びの方法とその学習成果の在り方について、多くの教育実践の事例を通して皆様と議論していきたいと考えています。個別最適化された学びの方法とは具体的にどのようなものであり、それはどのように成立させることができるのか。そしてそこに重要なキーとなってくる学習成果をどのように捉え、蓄積し、学びに活用していくのか、などについて皆様から教育実践をご発表いただき、考えていきたいと思ひます。これからの社会に求められる学びは、学校教育に限らず、放課後児童クラブ・放課後等デイサービスや、地域・家庭、企業等、実に様々な場、さらには、発達段階があると思われまひます。このようなことから、保・幼・小・中・高等学校、そして大学や生涯学習などにおけるそれぞれの場・段階での「新たな学び」を考えていく必要があります。そのために、様々なお立場の皆様からのご発表をお待ちいたしてあります。

テーマ： グローバル人材はいかに育成するのか？（国際交流研究会）

【コーディネータ】小川 勤（山口大学），陳 那森（関西国際大学）

【要旨】

各大学では教育のグローバル化の進展を目指して様々な教育プログラムが開発されて実施させています。しかし、そのような努力に関わらず、新卒一括採用という日本固有の雇用慣習を気にして海外留学に後ろ向きな日本人学生、留学費用の大きな負担感、日本の大学における単位認定制度の未整備等、日本人学生の海外留学にはさまざまな課題が見えてきています。

経団連もようやく最近、新卒一括採用制度を廃止するような動きを見せています。日本から海外の大学への留学、海外からの日本への留学、それぞれの課題について、さまざまな角度から協議します。

**テーマ： ウィキペディアを活用したデジタルアーカイブ化
（デジタルアーカイブ研究会）**

【コーディネータ】井上 透（岐阜女子大学），皆川 雅章（札幌学院大学）

【要旨】

地域資料をデジタルアーカイブ化する上での1つの大きな課題として、持続可能なシステムの構築・運用がありますが、その実現は地域の規模や環境、財政などに依存し容易ではありません。しかし、この実現可能性とは別に、「消えていく地域の記憶」を忘れ去られないうちに記録していく手段が必要であり、その1つとしてインターネット百科事典ウィキペディアの活用がある。周知の通り、ウィキペディアはサイトにアクセス可能な誰もが自由に編集に参加でき、システムの持続可能性も期待できます。地域資料を出典とした内容をウィキペディア上で編集・発信することで、インターネット上で関連する資料にアクセスすることが容易になり、当該資料の閲覧・活用が期待される。市民参加、地域図書館との連携のもとに編集・発信を行っているウィキペディアタウンは、全国規模の活動に発展しています。編集作業自体は特殊な環境を必要とせず、検証可能な情報発信を学ぶ機会となることから、教育活動の中に取り入れている事例もある。本研究会では、地域資料のデジタルアーカイブ化を促進する上で、ウィキペディアの活用方法を探っていきたいです。本テーマに関連するさまざまな話題での発表を歓迎します。

**テーマ： 超スマート社会と権利～オープンサイエンスとシチズンサイエンス
（著作権等研究会）**

【コーディネータ】塩 雅之（常磐大学），坂井 知志（常磐大学）

【要旨】

超スマート社会の進展が、「いつでも」「どこでも」「誰でも」「何でも」学べる社会の実現へとどのようにつながるのか。その実現の大きな課題としての著作権・肖像権・個人情報・プライバシーがどのように尊重されるのか。また、「知」をどのように公開・共有するのかについて検討します。

超スマート社会のバーチャルとリアルな社会での権利の相違点、バーチャル空間

が国際的な問題となった場合の他国との権利の相違点などが大きなリスクになること。また、権利が提供者のコンテンツを守ること。それらを適切に対応することにより、一部の研究者の分野であった研究も新たなシチズンサイエンスとしてダイナミズムを包含しつつ、オープンサイエンスへと向かうこと。等々の課題を深めます。

テーマ： 多様な受講者に対する ICT の効果的な活用（ICT 活用研究会）

【コーディネータ】河野 敏行（岡山理科大学）、坂井 岳志（八幡小学校）

【要旨】

2020 年、小学校におけるプログラミング教育の必修化を目前に控え、プログラミング的思考力を養うための教育の在り方について、小中学校をはじめ、高校・大学、その他さまざまな教育関係機関において議論されています。ICT 活用研究会では ICT をただ、道具として導入するといったインフラの整備だけではなく、より効果的に活用するための教育方法についての議論を進めています。

1. 学校教育と地域を巻き込んだ学習環境の構築
2. 小学校から大学そして社会人に向けた教材開発
3. 学校だけではなく生涯教育などを支える教育サポートシステムの構築
4. ICT を活用し、プログラミング的思考を養う教育
5. プログラミング教育の具体的な内容と方法について検討、提案
6. ICT を効果的に活用し、創造的能力を育成する研修
7. ICT の活用促進のための具体的な環境や教材
8. 時間と空間を超えて研究や学習者とのコミュニケーションをサポートするネット会議システム

以上のテーマを中心に関連する内容について広く課題研究発表を募集します。

テーマ： 合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー（特別支援教育 AT 研究会）

【コーディネータ】太田 容次（ノートルダム女子大学）、
中島 康明（大阪人間科学大学）

【要旨】

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成 25 年法律第 65 号）の実施を受け、教育分野も大きな改革が行われてきました。都道府県教委レベルでも具体的な「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」の内容が通知され、新しい学習指導要領への移行とともに、インクルーシブな教育環境・指導の発展がはかられてきています。この「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」には障害に応じた ICT 機器等の活用（アシスティブ・テクノロジー）が重要で、その活用のさらなる発展・普及が期待されています。また、著作権法の改正により、デジタル教科書に関する法律も整備され、特に障害のある子どもへの利用についても、合理的配慮として重要な検討課題となります。特別支援教育 AT 研究会では課題研究のテーマとして

「合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー」を設定し、最新の技術と利用について議論します。

テーマ： インスティテューショナル・リサーチの基礎と展開（IR 研究会）

【コーディネータ】石井 雅章（神田外語大学），森 雅生（東京工業大学）

【要旨】

インスティテューショナル・リサーチ（IR）は、大学の経営および意思決定支援、計画策定のツールとして、教育・研究活動のみならず、人事や組織内資源配分、計画立案に欠かすことのできない機能として認知されつつあります。国内での経緯として、教育に関する IR が十数年前に米国から紹介されましたが、日本では、当時から注目されていたデータサイエンスの隆盛と相まって、先進的なデータ分析に基づく大学経営の支援の実現に期待が寄せられました。例えば、中退しそうな学生を事前に検知し手当を行う「中退予防」、これから注目される研究分野や学際的領域を研究者の情報を分析し、それに基づく研究分野を創生する「研究 IR」などです。本研究会では、IR の基礎から先進的な取り組みまでの事例研究を通して、これからの IR の在り方や人材育成について議論を行います。

テーマ： 発達段階に応じたプログラミング教育の在り方（プログラミング研究会）

【コーディネータ】小熊 良一（群馬大学），伊藤 大河（共栄大学）

【要旨】

新教育課程においては、プログラミング教育が小・中・高等学校において必修化された。プログラミング教育の円滑な実施に向けて、本研究会では、発達段階に応じたプログラミング教育の事例提案を行います。

学習指導要領や同解説で示している小学校段階のプログラミング教育についての基本的な考え方などを紐解き、教師がプログラミング教育に対して抱いている不安を解消し、安心して取り組めるようにすることをねらいとしています。

*教職開発研究会におきましては、本年度は募集致しません。

【5】 研究発表申込募集

① 研究発表申込み資格

第 1 発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@ashiya-u.ac.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。

会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある 4 ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。

※研究発表の申し込みや発表原稿の提出時に、会員番号が必要となります。

② 発表内容について

「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください。

ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

<一般研究発表セッション一覧> ※第 2 希望まで選択

- | | | | |
|-------|-------|------------|-------|
| ・情報教育 | ・教育方法 | ・学習評価 | ・教育実践 |
| ・教科教育 | ・教材開発 | ・デジタルアーカイブ | |

申込時に選択するキーワードは下記の通りです。

教育情報管理, 文献資料, 教材, 電子教科書, デジタル・コンテンツ, 教材開発, メタデータ, 情報カテゴリー, シソーラス, デジタル・アーカイブ, 知的財産権, プライバシー, カリキュラム, 教材研究, 学習評価, 授業分析, 教育システム, 交流学习, 高大連携, 生涯学習, 教師教育, 情報教育, プログラミング教育, 教科教育, 情報処理教育, e ラーニング, 教育情報システム, 学習ソフトウェア開発, 学習情報管理システム, データベース, 情報検索, インターネット, 遠隔教育, 遠隔教育システム, ネットワーク, プレゼンテーション, 電子黒板, マルチメディア, 国際貢献・協力, 国際理解, 特別支援教育, 高等教育, 専門教育, 技術教育, 初等教育, 中等教育, 情報モラル, メディアリテラシー, アクティブ・ラーニング, 反転学習, FD・SD, IR, 接続教育, ラーニング・コモンズ, キャリア教育, 児童教育, 幼児教育, 人間力, 企業連携, 地域力, 地域連携

③ 発表申込み方法に関するお願い

《1》 発表申込み方法

- ・第35回年会ホームページ〈<http://ous.blue/jsei2019/>〉の各種申込の「発表申込みフォーム」から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込み後の申込内容変更については、年会ホームページのお問い合わせからご連絡をお願いします。

《2》 発表申込み期間

- ・3月1日（金）～ 4月26日（金）

《3》 申込み完了メール

- ・Web上の「発表申込みフォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。
※申込み完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

《4》 発表採否通知期間

- ・5月13日（月）頃（発表のお申込が完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

《5》 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

《6》 原稿提出期間

- ・6月1日（土）～ 7月12日（金）

《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。
- ・発表等の時間の目安は、発表15分、質疑4分、交代1分です。ただし発表件数によっては各時間が変更になる場合がありますのでご注意ください。

《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

《9》 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・一般研究については、希望するセッションを選んでください。
- ・上記の一般研究発表のキーワードの中から 2～5 語以内を選んでください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して、問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

《10》 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF 形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

《11》 発表会場

- ・会場には、プロジェクタが準備されています。パソコンは各自で持参してください。
- ・プロジェクタには、HDMI 端子はございません。VGA 端子が利用できるパソコンをご準備ください。
- ・会場では、Wi-Fi 等のインターネット環境の貸し出しはございません。
- ・会場までは、JR 岡山駅から岡山理科大学行きバスまたは、津山線の法界院駅で降りて徒歩で 20 分程度となります。
- ・

【JR 山陽本線 岡山駅下車】

- ・岡山駅西口バスターミナル 22 番乗り場「47 岡山理科大学」行で約 20 分。
- ・岡山駅東口バスターミナル 13 番乗り場「37 岡山理科大学東門」行で約 30 分。

【JR 津山線 法界院駅下車】

- ・岡山理科大学が見えますので、目指して歩いて約 20 分。

【6】 年会の参加方法

① 参加申込フォーム

- ・参加申し込みの際には、最初に②を確認して参加費などの振込完了後、年会ホームページ内の参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

② 参加費用

参加費，年会論文集代，懇親会費は下記のとおりです。

なお，支払方法につきましては，次号のニューズレターでご案内いたします。

○参加費

- ・会員＜事前申込＞ 参加費 3,000 円
 - ・会員＜当日申込＞ 参加費 4,000 円 ※会場にて現金支払い
 - ・非会員 参加費 4,000 円
- ※後援教職員,協賛企業は無料

○年会論文集代 3,500 円

○懇親会費 5,000 円

※領収書については当日受付にてお渡しいたします。

【7】 年会開催までのスケジュール

- 発表申込期間 2019年3月1日（金）～4月26日（金）
- 発表決定通知 2019年5月13日（月）頃
- 原稿提出期間 2019年6月1日（土）～7月12日（金）
- 参加申込期間 2019年6月1日（土）～8月5日（月）
- 論文郵送申込期間 2019年6月1日（土）～8月5日（月）

【8】 広告掲載募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には、当日会場内ブースにて、無料で製品紹介及び展示等をしていただくことが可能です。Web サイトバナー広告は年会 HP (<http://ous.blue/jsei2019/>) にて掲載いたします。企業の PR や情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

広告掲載申込方法などは HP (<http://ous.blue/jsei2019/>) にて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ホームページのお問い合わせからお願いします。

協賛（料金：¥30,000）		
論文集掲載広告		
① 展示（1 ブース） ② 広告 1（論文集掲載） ③ 広告 2（Web サイトバナー） ④ 広告 3（フライヤー同封）	色	1 色（モノクロ）
	頁（寸法）	1/1 頁（天地 240mm×左右 160mm）
	形式	Word, JPEG
	Web サイトバナー	
	寸法	180 ピクセル×70 ピクセル（横×縦）
	形式	JPEG, PNG

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13-22 芦屋大学技術研究棟 若杉研究室
TEL: 090-1026-1413 FAX: 050-3488-5061
E-mail: jsei@ahiya-u.ac.jp HP: <http://jsei.jp/home/>